

放射線技師 自民が議連発足へ、発言力確保 目指す

2022年2月8日(火) 引用元:読売新聞

自民党の有志議員が3月にも、診療放射線技師に関する議員連盟を発足することが分かった。

中央政界や霞が関での技師の認知度を高め、発言力を確保していく狙いがある。

関係者によると、議連は技師の処遇改善などを議論するもので、根本匠・元厚生労働相が会長に就任し、技師の資格を持つ畦元将吾衆院議員らが参加する予定だ。

国家資格の診療放射線技師は、レントゲンやコンピューター断層撮影法(CT)検査、放射線治療のスペシャリストで、全国に約5万人いる。だが、医師や看護師らと違って政府との「窓口」になる主立った議連がなく、「処遇改善などの要望が省庁にほとんど伝わらなかった」(関係者)。

そこで、党内の厚労族議員らが動いて、議連発足の機運が高まった。畦元氏が昨年の衆院選で再選したことや技師をモデルにしたマンガやドラマが人気を博していて、一般の認知度が高まっていることも追い風となった。議連発足で党の支持拡大を図る狙いもある。

一方、これに関連し、14日には、放射線に関する知識普及や利活用を推進するための議連が発足する予定だ。田村憲久・前厚労相や小泉進次郎・前環境相、畦元氏らが参加し、放射線の間違った知識で風評被害や差別が生じないように、学校教育などの充実を図る。